異常値処理プログラム

errorValueCheckB

操作説明書

2017年3月2日

有限会社スピナッチパワー

目次

[本プログラムについて 3](#_Toc476236016)

[全体の流れ 3](#_Toc476236017)

[起動する 4](#_Toc476236018)

[入力元ファイルを指定する 5](#_Toc476236019)

[ファイルを読み込んでグループと反応時間を選択する 6](#_Toc476236020)

[異常値を検出し、不要なデータを選択する 7](#_Toc476236021)

[出力フォルダの指定 8](#_Toc476236022)

[実行 9](#_Toc476236023)

[処理完了 10](#_Toc476236024)

[作成ざれるファイル 11](#_Toc476236025)

## 本プログラムについて

このプログラムは入力されたファイルを読み込み、異常値を自動で判断し、検出されたデータをファイルに書き込むか書き込まないかを決め、ファイルに書き出すプログラムです。

## 全体の流れ

本プログラムでの作業の流れを示した図が図１です。本プログラムを使用することで異常値が含まれたデータを簡単に排除することが出来ます。



図１　全体の流れ

## 起動する

CD-ROMよりセットアップされたPCには図２のようなアイコンがデスクトップ上に作成されます。



図２　デスクトップに作成されたアイコン

このアイコンをダブルクリックすることで本プログラムは起動します。起動直後の画面は図３のとおりです。

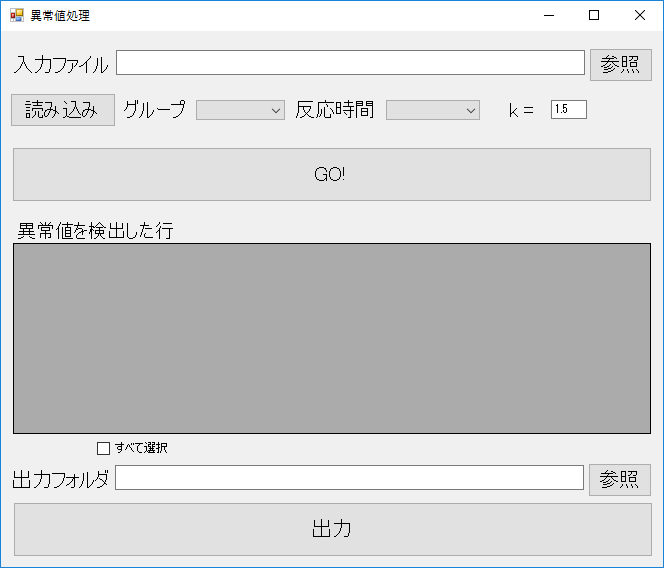


図３　起動画面

この画面より入力ファイルを選択します。

## 入力ファイルを指定する

図３の画面より入力ファイルの参照をクリックすると図４ファイル選択画面が表示されます。

この画面よりファイルを選択して開くをクリックします。

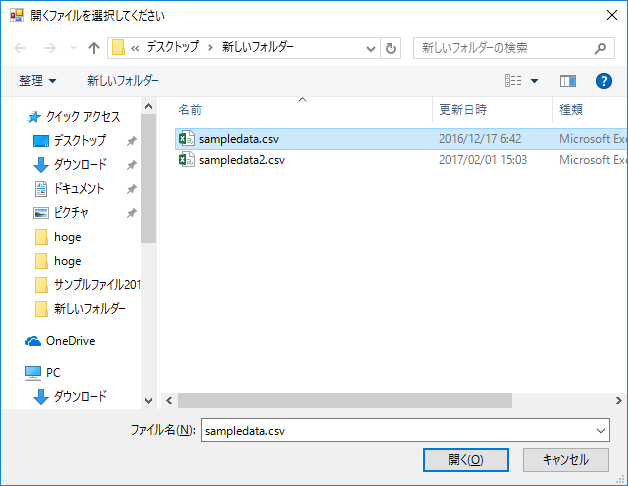
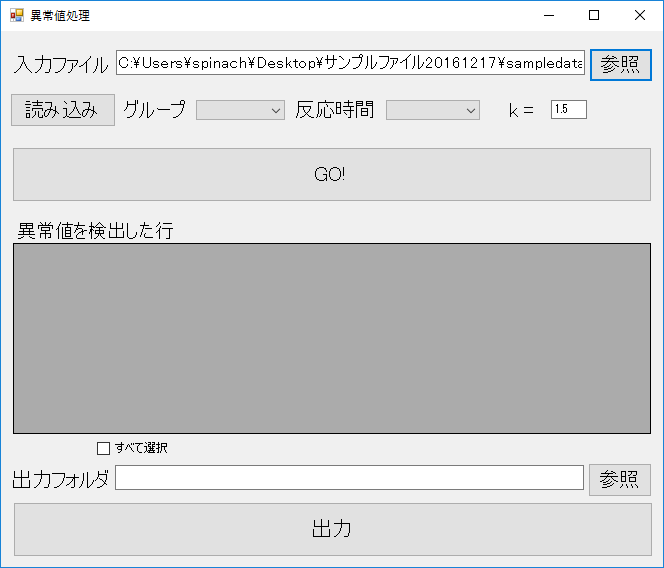


図４　ファイル選択画面

## ファイルを読み込んでグループと反応時間を選択する



**④**

**③**

**②**

図５　ファイルの読み込み

①の読み込みボタンを押します。

②をクリックするとグループが選択できるのでグループ化したい列名を選択します。

③をクリックすると反応時間が選択できるのでlatencyにあたる列名を選択します。

## 異常値を検出し、不要なデータを選択する

　図５　④をクリックします。

図６のような画面になります。

図６の画面で異常値を検出した行のチェックボックスでチェックが入っている項目が書き出さないデータです。

もし、残したいデータが含まれていたら削除のチェックボックスからチェックを外してください。

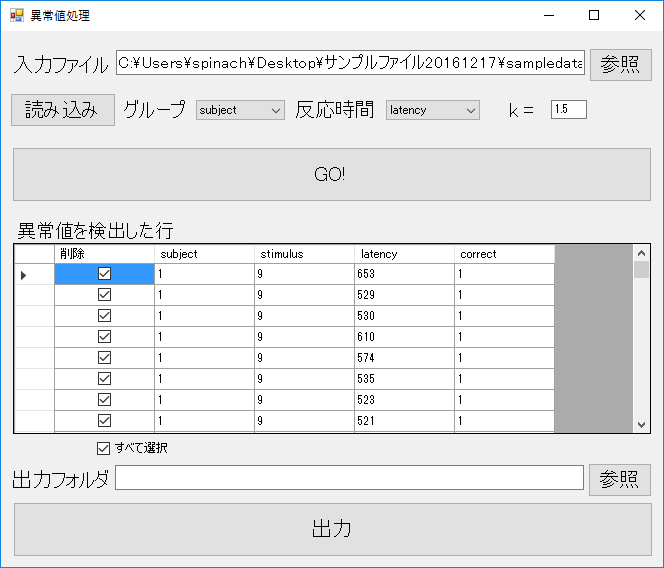


図６　異常値検出後

## 出力フォルダの指定

図３の画面より出力フォルダの参照をクリックすると図７フォルダ選択の画面が表示されます。

この画面より出力されるフォルダを選択し、OKをクリックします。

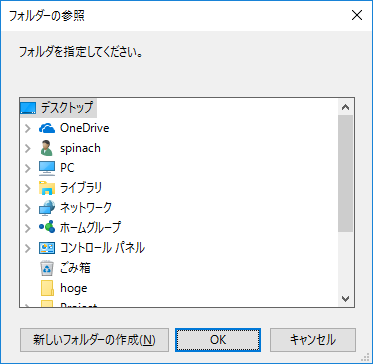


図７ フォルダの参照画面

## 実行

GO!ボタンを押すとチェックが入っている異常値が取り除かれたファイルが作成されます。

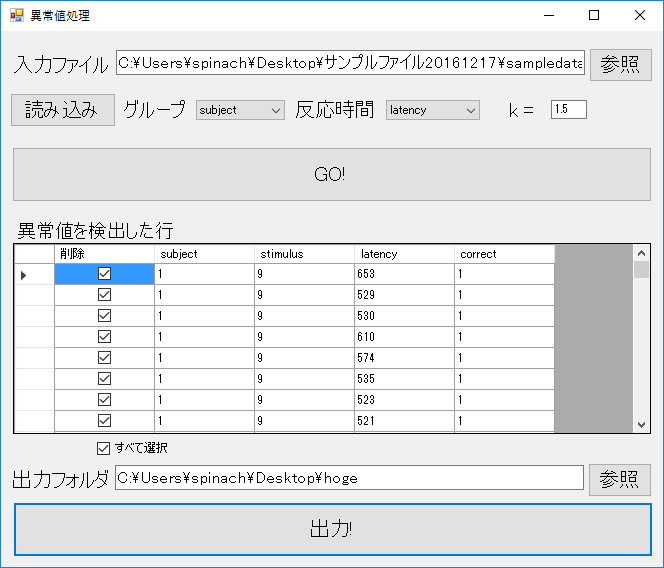


図８　異常値除去実行前

GO!ボタンを押すとGO!の文字が処理中になり、GO!の文字が表示されると処理が完了です。

この処理は最大で１分以上かかる場合もあります。

## 処理完了

処理が完了しますと、図９のような画面が出てきます。

＜はい(Y)＞を押すと、出力フォルダが開きます。

＜いいえ(N)＞を押すと、この画面が閉じます。

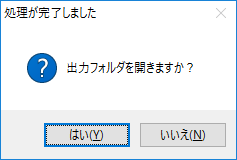


図９　処理完了画面

## 作成ざれるファイル

入力ファイルがsampledata.csvの場合以下のファイルが出力されます。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 種類 | 拡張子 | ファイル名(例) | 内容 |
| エラーファイル | .csv | sampledata\_error.csv | 検出された値を集めたファイル |
| 異常値が除去されたファイル | .dat  .csv | sample\_mid.csv  sample\_mid.dat | エラーを取り除いたファイル |